「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を目指して」
～教科指導における観点別評価を踏まえたPDCAサイクルと授業実践～

北海道真駒内養護学校　研究部

１　目的

本校では平成28～30年度の実践研究で、教科指導における個別性と系統性を踏まえた上で、主に個別性の観点から授業改善を進めた。一定の成果が見られた一方で、教科指導において、学校として⑴教えるべき学習内容の整理が不十分であること、⑵授業改善のシステムが明確でないことが課題としてあげられた。また、新学習指導要領に示された育成すべき資質能力の３つの柱を踏まえた⑶目標・内容や評価規準の立て方についての整理も必要であった。そこで、上記3点の改善を目的とし、日々の授業の充実を目指し本研究に取り組んだ。(3か年。本年3年次)

２　内容・方法

上記を学校全体として改善するために、2か年計画で本校の年間指導計画並びに単元指導計画を見直すこととした。併せて新しい単元指導計画を実際に運用しながら、教科グループごとに動画による研究授業を行い、システムの定着や検証を図ることとした。なお、研究を進めるにあたり、学部間の連携を進めるために、各教科グループには各学部の教員が所属するようにした。また、改訂された特別支援学校学習指導要領を踏まえながら推進した。

１）令和元年度、2年度の取り組み

①各教科で取り扱う内容の整理（年間指導計画の改善・充実）

各教科グループで、学習指導要領と本校の年間指導計画を照らし合わせ、取り扱う内容にもれや偏りがないかを確認した。また、各学年の年間指導計画を比較し、内容の重複等がある箇所は、学部･学年間で協議し調整するようにした。

②授業改善のシステムの整理（単元指導計画に関する検討・整理）

学習のまとまりごとに授業改善のサイクルが機能するように、知的代替の各教科の単元指導計画を見直し全校で活用することにした。

新様式では、単元のねらいや単元構成の他に、「学習指導要領との関連」「育てたい生きる力の5要素(※1)」「評価規準」「授業評価」の項目を加えた。また、「授業評価」は、「授業作りの5つの視点」(※2)に基づく項立てにすることで、各単元の指導の際に有効な手立てや配慮事項を、指導者間で共有したり引き継いだりできるようにした。

③授業作りの５つの視点による検証

単元指導計画に取り入れた「授業作りの5つの視点」に基づき、実際の授業動画を視聴し分析する研究協議を教科グループごとに行った。

２）令和3年度の取り組み

当初、本研究は2か年の予定だったが、まとめの際、単元指導計画について、「特に観点別評価を踏まえた目標や評価規準の立て方がわかりにくく作成に負担感がある」等の声が挙げられた。そこで、令和3年度は、単元指導計画を教務部中心に運用しながら、これらの状況を改善するための研究の取り組みを進めることとした。

①外部講師による全校研修

観点別評価を踏まえた目標や評価規準の立て方に関する理解を深めるため、年度始めに全校研修を行い、その後のグループ研究や実際の単元指導計画の作成に生かせるようにした。

②作成の手引きなどの整理

教務部と連携して、単元指導計画の作成の手引きや、各教科の単元指導計画の見本などを整理して、作成しやすい環境を整えた。

③単元指導計画の一部改良

単元指導計画の授業評価覧に、内容や時数についての改善の必要性の有無をチェックする項目を設け、年度が変わっても単元の改善・充実が機能するようにした。

④グループでの協議

新しい単元指導計画を活用したPDCAサイクルの定着や検証を進めるために新しい単元指導計画に基づいた実践を進めながら、教科グループごとに疑問や課題点を協議し、改善につなげた。

⑤研究授業の実施

新しい単元指導計画を運用しながら、動画視聴による研究授業を各教科で取り組んだ。研究授業は、2回実施することで、改善後の授業について再度検証できるようにした。

⑥その他

自立活動を主とする教育課程の児童生徒の年間指導計画のあり方について協議を進め、様式案を作成した。

３　結果と考察

本研究の成果と課題は主に次のとおりである。

１）各教科で指導すべき内容の整理が進んだ。学部、学年間での指導内容の整理は、小～中段階まではある程度進んだが、小中～高のつながりや段階ごとの内容の整理は、まだ不十分であり、今後の取組が必要である。

２）授業改善に関する日常的なPDCAサイクルの流れを整えることができたので、今後は実践を通し更なる改善･充実が図られると考える。

３）観点別評価に基づく目標・内容や評価規準立案に関わる理解については、研究グループによる研究授業及び協議において研修・共有を図ることができた。

※１(H21～23本校研究)　※２（H27本校研究）